

mizuki

みずき
第8号



大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 医療連携室ニュース ● 2007年9月発行

contents

- 病院医療相談部リニューアルのお知らせ …… P.1
- 新任診療科長のご紹介
「消化器内科、血液内科、総合内科」 …… P.2
「呼吸器外科、救急医療部」 …… P.3
- 四医師会大阪医科大学医療連携の会 …… P.3
- 診療科の紹介「循環器内科」 …… P.4
- 診療科の紹介「心臓血管外科」 …… P.5
- 第2回病院医療相談部特別講演会 …… P.6
- 第9回医療マネジメント学会学術総会 …… P.6
- 今後の予定 …… P.6
- 編集後記 …… P.6



病院医療相談部が リニューアルいたしました

病院医療相談部の出入り口を患者様から分かりやすい位置に変更しました。オープンカウンターを設け、気軽に声を掛けていただけるようになっており、相談・連携業務に関わるだけでなく、様々なご質問で多くの患者様が来られます。

お近くにお越しの際は一度お立ち寄りください。



新任診療科長のご紹介 ● 消化器内科 ● 血液内科 ● 総合内科



樋口 和秀 (ひぐち かずひで)

消化器内科

当院消化器内科は、胃腸、肝臓、胆膵の良性悪性疾患の治療、および癌に対する化学療法を中心に診療を行っております。北摂地域の機関病院としての地域医療のサポートはもちろんのこと、大学病院としての最先端医療の提供は必要不可欠であると思っております。近年、胃腸分野におきましては、めまぐるしい進歩が認められます。特に内視鏡においては、カプセル内視鏡が平成15年に日本に導入され、全国10数力所の施設で施行可能となりました。当科におきましても、昨年に導入し、行っております。カプセル内視鏡は、上部・下部内視鏡では見つけることのできない、いわゆる原因不明の消化管出血に効力を発揮します。すなわち、小腸の内視鏡として開発されました。近畿圏では、我が大学を含めて4施設しかカプセル内視鏡をすることができないことから、そのニーズは高く、このような疾患をもつ患者様の紹介が著増しております。

もう一つの話は、内視鏡治療の進歩です。これまでも食道・胃・大腸の早期癌の内視鏡的切除術は行われていましたが、最近、内視鏡下に高周波ナイフを用いて、病変をさらに正確に切除する方法が開発

され、当科においても数多く行っています。さらに、最近増加傾向にある逆流性食道炎に対して、内服ではなく、内視鏡での治療も開発されましたが、まだ全国で数力所の施設しかできません。このような内視鏡手術を当内視鏡センターでは全国レベルの指導的立場で行っています。

私どもは、患者様のニーズに合わせて、地域の先生方と密に連携し、患者様にご満足いただけるような最高水準の医療をきめ細やかに丁寧

● 専門分野 / 消化器全般、内視鏡治療

● 資格 / 日本内科学会認定医・指導医、
日本消化器病学会認定医・指導医、
日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医、
日本潰瘍学会評議員、日本ヘリコバクター学会評議員、
日本食道学会評議員、日本門脈圧亢進症学会評議員

● 略歴

昭和57年 3月 大阪市立大学医学部卒業
平成14年 7月 大阪市立大学助教授
平成16年 8月 カリフォルニア大学アーバイン校客員助教授
平成19年 4月 大阪医科大学教授

● 趣味・特技 / 音楽、ゴルフ、家庭菜園



田窪 孝行 (たくぼ たかゆき)

血液内科

医学の進歩は目覚ましく、「不治の病」とかつては称された造血器悪性腫瘍に対して新しい治療法の開発ならびに支持療法の進歩により治療率は向上し、長期生存が得られるようになりました。血液内科では白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫などの造血器腫瘍、さらに再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの血液疾患に対して標準的治療および研究的治療を行っています。そのなかで造血器腫瘍に対しては化学療法、分子標的治療、造血幹細胞移植など集学的治療を実施しています。造血幹細胞移植では、自家末梢血幹細胞移植および同胞骨髄移植を積極的に行っています。さらに、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、病理医と連携し、チーム医療を行うことで包括的医療を提供しています。血液内科一同、造血器悪性腫瘍の治療を目指して診療・臨床研究に励んでいます。今後ともよろしくご挨拶申し上げます。

● 専門分野 / 臨床血液学、臨床検査医学

● 資格 / 日本血液学会認定血液専門医・血液指導医、
日本内科学会認定内科医、
日本臨床検査医学会臨床検査専門医、日本内科学会・評議員、
日本臨床血液学会・評議員、日本臨床検査医学会・評議員、
日本検査血液学会・評議員、日本総合健診医学会・評議員

● 略歴

昭和48年 3月 大阪医科大学卒業
昭和48年 5月 大阪府立成人病センター内科医員
昭和58年 4月 大阪医科大学病態検査学助手
昭和61年 4月 大阪医科大学病態検査学講師
平成5年 7月 大阪市立大学医学部臨床検査医学講師
平成9年 4月 大阪市立大学医学部臨床検査学助教授
平成18年 5月 大阪医科大学臨床検査学教授

● 趣味・特技 / カメラ、読書



浮村 聡 (うきむら あきら)

総合内科

平成19年4月1日に総合内科の科長を拝命した浮村聡と申します。医療の高度化とともに特に大学病院の医療の専門化には著しいものがあります。その反面あまりにも専門性に特化しているため、いろいろな病態を持つ患者様の初期診療が問題となっております。当科ではいわゆる専門医とは逆の「臨床医学全般に精通した「専門的でない」専門の医師」としてプライマリ・ケアを行うことを目標の一つとしています。こうした総合科重視は厚生労働省が目指している方向でもあります。また、総合内科には人間ドックも併設しており、生活習慣病の発見や予防、癌や脳血管疾患等の早期発見などを通じて予防医療の一翼を担うことも目標としています。

一方で個々の医師はそれぞれの専門領域(循環器、感染症、消化器、膠原病)があり互いに連携をとりつつ外来における医療の質の向上に努めています。またさらなる専門的医療が必要と判断される場合には、

速やかに適切な診療科に紹介致します。

今後も患者様にご満足頂けるよう地域の先生方との連携をさらに高めながら診療を行っていきたくと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

● 専門分野 / 内科、感染症内科、循環器内科

● 資格 / 日本内科学会認定内科専門医(地方会評議員)、
日本感染症学会認定感染症専門医(評議員)、
日本循環器学会認定循環器専門医(地方会評議員)、ICD

● 略歴

昭和59年 3月 大阪医科大学(医学部)卒業
昭和59年 6月 大阪医科大学第三内科入局
昭和61年 4月 滋賀県立成人病センター医員(循環器科勤務)
昭和63年 4月 大阪医科大学専攻医(第三内科学教室)
平成4年 11月 大阪医科大学助手(第三内科学教室)
平成13年 2月 大阪医科大学学内講師(第三内科学教室)
平成19年 2月 大阪医科大学講師(第三内科学教室)

● 趣味・特技 / 音楽(合唱および鑑賞)、美術鑑賞

●呼吸器外科●救急医療部



花岡 伸治 (はなおか のぶはる)

呼吸器外科

平成19年4月1日より呼吸器外科の診療科長として着任いたしました花岡伸治でございます。現在、日本人の死亡原因としては、悪性腫瘍によるものももっとも多く、その中でも、肺癌は、男性の悪性腫瘍での死亡原因の一位であります。さらに肺癌の治療成績は、胃癌、乳癌などに比べて決して良好とは言えないのが現状です。そこで呼吸器内科医、放射線科医とともに肺癌に対する集学的治療を行い、外科的に病巣を摘出することで、少しでも、この状況を改善できるように呼吸器外科スタッフ一同、日々、努力しております。手術の方法として内視鏡手術を積極的に行うことで、手術を受けられる方の侵襲を少なくするように心がけております。また、肺癌になられてしまった患者さんや、そのご家族と病状や治療方針とその方法について十分なインフォームド・コンセントを行うことで、我々自身やその身内が肺癌になってしまった時、受けたい、また受けさせたい治療を目標に治療にあたっております。今後とも宜しくお願いたします。

●専門分野/肺癌、縦隔腫瘍の外科治療、内視鏡手術

●資格/日本外科学会認定医、日本外科学会専門医、日本胸外科学会認定医、日本呼吸器外科学会指導医、日本呼吸器外科学会専門医、日本呼吸器外科学会評議員

●略歴

昭和63年 3月 金沢大学医学部卒業
 昭和63年 6月 京都大学胸部疾患研究所 胸部外科学教室入局
 平成 元年 3月 市立静岡病院 胸部心臓血管外科
 平成 4年 4月 高知市立市民病院 胸部心臓血管外科
 平成 8年 4月 財団法人 倉敷中央病院 呼吸器外科
 平成 9年 4月 京都大学医学部大学院
 平成13年 4月 京都大学医学部附属病院 呼吸器外科医員
 平成14年 9月 同上 助手
 平成18年 4月 鹿児島大学医学部附属病院 第二外科
 平成19年 4月 大阪医科大学 胸部外科学講師

●趣味・特技/ゴルフ



森田 大 (もりた ひろし)

救急医療部

近年、高齢者の増加に伴い疾病構造が変化してきております。このような社会背景から救急医療への要求も多様化し、より安心な質の高い医療が求められ、従来イメージされてきた救急医療は大きな転換期を迎えようとしています。救急医には重症傷病者への対応だけでなく、軽症中等傷病者への適切な初期治療とトリアージが行えるよう見直され、さらなる充実が求められつつあります。

救急医療のニーズは高いのですが、依然3Kの一つで人材は払底しています。困難な環境にありますが、スタッフの充実を図りながら標準的な治療手順、科学的根拠にもとづく医療を積極的に取り入れ、引き続き安全と安心の医療を提供できるよう整備しなければなりません。

当救急医療部では多くの患者様の受け入れができるように努力しておりますが、協力いただいている各専門診療科の都合も考慮に入れ、地域の救急医療機関と連携をとりながら、それぞれの役割分担に従って市民の要望に沿えるような救急医療を目指して行きたいと思っております。今後とも宜しくお願申し上げます。

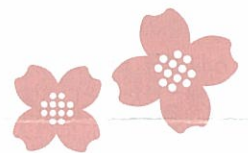
●専門分野/内科救急

●資格/日本救急医学会救急指導医、日本内科学会内科専門医、日本循環器学会専門医ならびに正会員代表

●略歴

昭和47年 3月 大阪医科大学医学部卒業
 昭和50年10月 大阪医科大学第三内科助手
 昭和62年 1月 大阪府三島救命救急センター副所長
 平成13年 4月 大阪府三島救命救急センター所長
 平成19年 4月 大阪医科大学救急医学教室教授

●趣味・特技/音楽鑑賞(クラシック)、アンプ製作



第4回四医師会大阪医科大学医療連携の会 (7月28日:たかつき京都ホテル)

高槻市・茨木市・摂津市・大阪医科大学の各医師会から多数の先生方にご参加いただき盛会裏に開催されました。

消化器内科科長 樋口和秀が「消化器内視鏡の最前線」、救急医療部科長 森田大が「過剰ストレスと心機能異常」と題した講演を行いました。先生方の診療のご参考にいただければ幸いです。



懇親会では、普段あまり顔を合わせる機会のない先生同士の交流を深めていただきました。今後の医療機関間のより良い連携につながるきっかけとなったことと思います。

診療科の紹介 ● 循環器内科



循環器内科I 科長
北浦 泰

— 循環器診療は日々進歩しています —

新たな画像機器の開発や病態理論の研究成果により、
循環器診療は目覚ましい進歩を遂げております。
この誌面をかりましてその一端をご紹介します。



循環器内科II 科長
石原 正

マルチスライスCTによる冠動脈疾患の診断

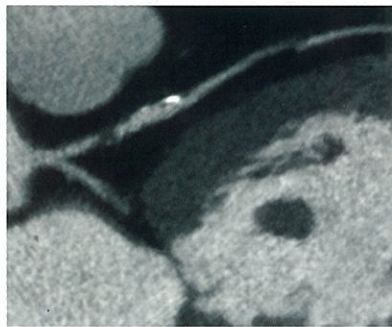
従来、虚血性心臓病の診断として運動負荷心電図や核医学検査が施行され、その所見に応じて観血的検査である冠動脈造影が行われてきました。

近年、複数列の探知器を備えたマルチスライスCTが開発され、下図に示しますように少量の造影剤（約50cc）の使用と短時間の息止め（約10秒）により、鮮明な冠動脈の内腔評価が可能となりました。

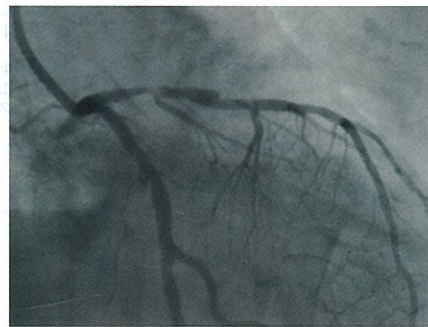
一部石灰化病変や不整脈の症例には限界はあるものの、運動機能障害の方や高齢者にも低侵襲で実施でき、将来は観血的冠動脈造影検査にとって替わるでしょう。

胸痛症例に対するマネージメントとして、先生方の日常診療の一助になるものと期待されます。

（担当：循環器内科 武田義弘、森田英晃）



CT



CAG

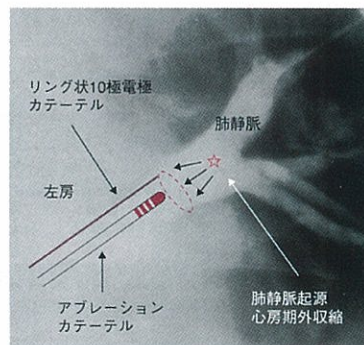
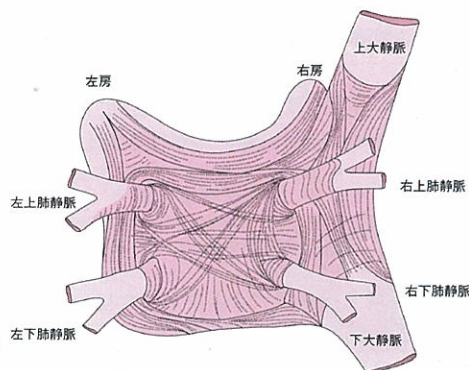
心房細動も根治できる時代に

心房細動は僧帽弁疾患や心筋疾患に合併する2次性と、明らかな心疾患を基礎にもたない特発性に分類されます。特に後者は加齢に加えて高血圧や糖尿病に合併して年々増加する傾向にあり、心房収縮が欠落することによる心機能低下や、心房内血栓による心原性塞栓症の合併など軽視できない疾患です。

近年、その成因の多くが肺静脈を起源とする異所性興奮が明らかとなり、下図に示しますように焼灼カテーテルを用いた経静脈的肺静脈・心房隔離術が行われるようになり、良好な成績を得ています。

動悸などの症状の強い症例や薬剤抵抗例など、日々の診療に苦慮されている症例をお持ちでしたら是非ご相談下さい。

（担当：中小路隆裕、梅田達也）



循環器内科での検査・治療に関しては、診察の上で適応を判断させていただいております。
受診（月～金 診察担当医）のご予約は医療連携室のFAX申込をご利用ください。

診療科の紹介 ● 心臓血管外科



心臓血管外科 科長
勝間田 敬弘

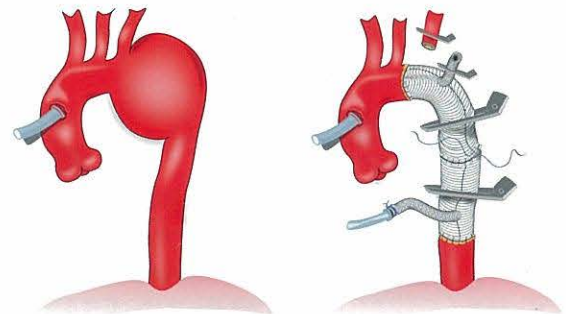
— 技術と綿密な診療でお応えいたします —

心臓血管外科では、小児から成人高齢者にいたる幅広い年齢層の患者様を対象とした手術治療を行っております。診療単位として、成人心臓血管外科（大動脈瘤、心臓弁膜症、虚血性心疾患、心筋症、心臓腫瘍、心膜疾患、閉塞性動脈硬化症など）、小児心臓血管外科（先天性心疾患）、不整脈センター（ペースメーカー、ICD）の3部門の体制を敷いており、これらが迅速かつ柔軟な連携を行っております。当科で手術治療を受けられた患者様は過去1年間で約330人におよび、その診療需要は年々増加しております。

特殊専門外来について

● 動脈瘤専門外来

動脈瘤専門外来では、高齢化社会の到来によって近年急増している大動脈瘤を対象に2005年に開設いたしました。約150人/年の大動脈瘤の患者様の診療を行っております。高齢に伴う重症化、合併疾患の多様化により施設間手術成績にいまだに隔たりが認められる大動脈瘤手術において、独自の手法開発、その改良により、手術適応の拡大を図るのみならず、高い救命率を実現いたしております。おかげさまで、大動脈瘤専門外来への手術紹介は府外からも多数賜り、大動脈瘤ドックとしての予後判定、手術適応とその時期、セカンドオピニオンの情報提供も合わせて行っております。昨年は94歳の動脈瘤の患者様も元気に歩いて退院していただきました。また、現在、多数のマルファン症候群の患者様が受診されておりますが、この専門外来ではその患者様の一生にわたって、大動脈解離や破裂といった致命的合併症を発生する前に予防的な大動脈治療を行うべく、患者様個別の病勢に応じた、継続的なきめ細かい診療を行っております。



<当科独自の手法による大動脈瘤手術>

大動脈瘤／動脈瘤専門外来受付

土曜日/9:00~12:00

(担当:心臓血管外科 勝間田 敬弘)

● 先天性心疾患専門外来

先天性心疾患専門外来では新生児から学童期を中心とした先天性心疾患の診療を行っております。私どもは、心臓病を患った子どもさんは通院、通学に容易な居住地域の基幹病院で完治させ、地元で社会復帰させたいという信念から、2005年より小児心臓血管外科手術の定常的な施行に向け入念に準備してまいりました。秀逸な診療スタッフが当科、小児科、麻酔科、周産期センターに整い、これらの緊密な連携のもと、2006年より乳児期開心手術を開始し、高い無輸血率、短い入院期間をはじめとする、生活の質を重視した診療を展開しております。

先天性心疾患専門外来受付

水曜日/9:00~12:00

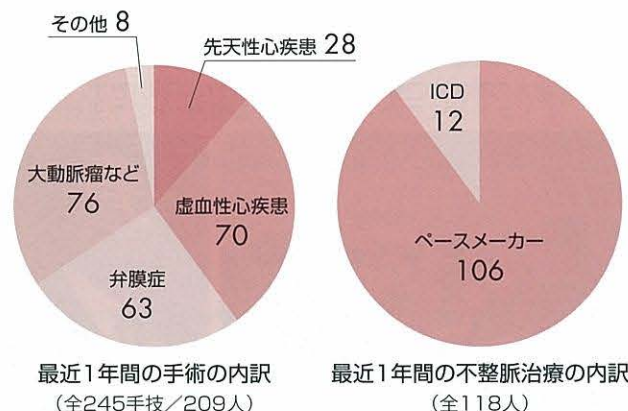
(担当:心臓血管外科 根本 慎太郎)

心臓血管緊急症への対応について

当科の手術の約15%は、心臓病や大動脈瘤の緊急手術です。当科では、一刻を争う患者様への緊急手術に24時間対応すべく医師の待機体制を確立しております。大阪府内外の医療機関からの御要請に即時性をもって対応させていただいておりますので、“これは急ぐ”と判断されたら、心臓血管外科（年中無休）にコールくださいますようお願い申し上げます。

心臓血管外科緊急連絡先

心臓血管外科当番医(24時間)まで



第2回病院医療相談部特別講演会(6月21日:本学講堂)



三輪亮寿法律事務所所長の三輪先生をお招きして、「最近の注目すべき医事紛争」と題した講演会を開催いたしました。三輪先生は薬学博士でもあり、弁護士としては数多くの医療裁判のご経験をお持ちです。もちろん医療事故などはあってはならないものであり、医療提供者も日々細心の注意を払って治療・診療に努めています。残念ながらさまざまな問題が起こっているのが現状です。三輪先生がご経験された事例から見てくる医療機関側の問題点を学び、患者様との信頼関係を築くためのインフォームド・コンセントの重要性など、多くのことを再認識する機会となりました。

第9回日本医療マネジメント学会学術総会(7月13、14日:東京)

当医療連携室の谷口が「大阪医科大学附属病院におけるセカンドオピニオン外来の現状」と題して、開設の経緯から現状、および問題点、さらには展望などを発表いたしました。今回の学会発表は私たちにとってもセカンドオピニオンを見直すきっかけとなり、よりいっそう相談者の方にとって意義深いものになるようにお手伝いできればとの思いを新たにいたしました。



セカンドオピニオン外来開設後の問題点と改定

相談者がセカンドオピニオンと通常の診察の違いについての理解をされていない。

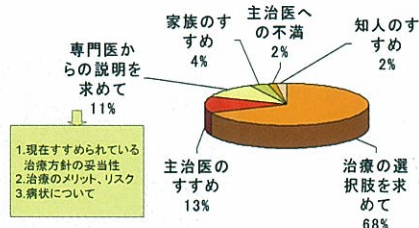
会議室利用の問題
シャカステン、CD-ROMデータを見るためのパソコンなどの設備がない。
会議室の予約が取れない。

平成18年3月
「同意書」の内容変更
（「診療行為は行わない」旨の文書を加えた）

平成18年1月
専用の部屋を確保
シャカステン、パソコンも常設

セカンドオピニオンアンケート

—受けようと思った理由は(複数回答可)—



1.現在すすめられている治療方針の妥当性
2.治療のメリット、リスク
3.病状について

今後の予定

●第9回がん医療従事者セミナー

日時/9月29日(土) 14:00~16:00 会場/高槻市市民交流センター5階視聴覚室
主催/高槻赤十字病院 共催/大阪医科大学附属病院

編集後記

残暑の候より清涼の候に季節が移り、とても過ごしやすい季節になって参りました。今回の「みずき」は新任科長5名のご紹介と、診療科紹介にて「循環器内科」と「心血管外科」を取り上げさせていただきました。一度に5名の診療科長が誕生する事は稀な事で、特別措置として誌面を従来の4面から6面に変更いたしました。トピックスとして「第2回病院医療相談部特別講演会」・「第9回日本医療マネジメント学会学術総会」等について掲載しました。日本医療マネジメント学会では、医師・薬剤師等が発表する中、医療連携室職員も「セカンドオピニオン」についての演題発表をしました。また、7月17日より病院外来フロントラインのレイアウト変更に伴い、尚一層患者様に適切な医療と環境を提供できるように努力いたします。

(T.S)